

株式会社さくら都市総合研究所

清水 秀幸
主席 主研究員

15 新田町交差点以南を考える

長野市の加藤久雄市長は、11月9日の信濃毎日新聞のインタビューで「中心市街地活性化に向けて、来年度、もんぜんぷら座の在り方の検討に取り掛かる」考えを示した。

長野市の中心市街地を南北に縦貫する中央通り―善光寺表参道―のほぼ中間点である新田町交差点を占有する同ビルの将来の有効性について、ハード・ソフトの両面にわたりあらためて検証することとは、単にその将来像のみならず、近未来の中心市街地のまちづくりを語るうえでも、歓迎すべきことである。そして本章では、そ

のもんぜんぷら座周辺を起点とし、その以南に目を転じて話を進めていきたい。

読者もご存知のように、以南を都市景観という視点で見ると、長野駅方面から善光寺へ北上した時、同交差点の東西軸を境にその風景はガラリと変わる。正確には「修景が変わる」といふべきだ。

風景と修景の相違については、機会があれば後述するとして、簡単に言うと、交差点以北は「秩序ある修景」が連続しているのに比べ、以南については「無秩序で不連続な修景」が露見されるということになる。

一つの街並みを造形するべき空間（景観）

が、かくも異なる修景を造形するに至った原因には、いくつかの要素がある。

現在、以北は市道（長野中央通り線）で、以南は県道（32号長野停車場線）のままととなっている。ここに一つの原因がある。

（続く）

清水 秀幸氏（しみず・ひでゆき）1952年長野市生まれ、76年明治大学政経学部政治学科卒。2013年6月株式会社守谷商会役員を退任し、同年7月株式会社さくら都市総合研究所を設立。長野市都市計画審議会専門委員ほか3委員、その他各地方自治体の審議員・部会員を兼任。現在同研究所社長



新田町南から善光寺を望むまち並み